

今回限定配布！

次回以降は無し

第1学年 英語科 後期中間考査 テストノート問題分析(解答例)

みなさんのテストノートを見せてもらいましたが、多くの人がきちんと分析できている中で、間違った解釈や分析になっていないものも少なくありませんでした。中には「わかりませんでした」というものもありました。そこで、正答を導く思考過程の例を示したいと思います。自分の書いたものと比較し、理解を深めてください。(注：情報量は最低限の簡略版)

《問題分析》 例にならって、以下の各問いについて正解を入れてから問題分析を下さい。

<例> 13-① Mr. Akita (**teaches**) Japanese. 秋田先生は国語を教えています。

【解説】

この文を見ると、空所の前後に名詞が1つずつあるだけで動詞がない。したがって、空所には動詞が入ることがわかる。また、日本語の意味には「教える」とあるので、一般動詞の **teach** がそこに入るとわかる。ただし、主語が三人称単数で「教えている」という現在の習慣を表す内容なので、答えは **teaches** となる。

13-② I (**can't**) swim very well. 私は泳ぐのがあまり上手ではありません。

【解説】

「上手ではありません」は **be not good at** ~であるが、その表現はないので、ここは「上手に~できない」と考える。すると、動詞 **swim** の前が空いているので「~できる」**can** の否定形の **can't** が入る。ちなみに **not very** ~は「あまり~ない」という意味になるので、**can't** ~ **very well** は「あまり上手に~できない」という意味である。

13-③ (**Does**) your mother cook every day? あなたの母親は毎日料理しますか。

【解説】

「毎日~する」は習慣を表すので、一般動詞の現在形で表すことになる。この文には **cook** という一般動詞があり、疑問文は **Do** または **Does** で始めることになるが、主語は三人称単数の **your mother** なので、答えは **Does** である。

13-④ **Don't** (**be**) late. 遅れてはいけません。

【解説】

「~してはいけない」という意味と文頭の **Don't** から、否定の命令文を作ることがわかる。否定命令文は **Don't** + 動詞の原形>であるので、空所には動詞が入ることがわかる。**late** は「遅れて」という意味の形容詞であるので、文として成立させるためには **be** 動詞が必要である。そこで答えは **be** 動詞の原形である **be** となる。

13-⑤ Tanya (**doesn't**) speak Japanese at school. ターニャは学校では日本語を話しません。

【解説】

「話しません」という意味から、習慣を表す文なので、現在形の否定文であることがわかる。**speak** という一般動詞があるので、**don't** または **doesn't** が入ることが考えられるが、主語が三人称単数の **Tanya** なので、答えは **doesn't** である。

<例>14-① A: Is this your bag or Ken's? B: It's (**mine**). Ken's is there.

【解説】

質問文は「これはあなたの~か健の~か」と言う意味であるので、答えの文はどちらのものかを答える内容だと思われる。それに対して答えの後半に「健のはあそこだ」とあるので、空所のある文は「私の~だ」と答えていることがわかる。しかし、空所は1語であるので、「私のもの」を表す **mine** を入れると判断できる。

14-② A: I have three pens here. Which do you like?

B: I like that yellow (**one**).

【解説】

Bの文は「あの黄色い〇〇が好きです。」という意味になることが予想される。疑問文は「3本のペンの中のどれが～」ということなので、答えは **pen** であることが予想される。しかし、条件で同じ単語は使えないということがあるので、ここは **pen** の代わりに同じ種類のものを表す **one** を入れることになる。

14-③ A: Are these books Kumi's? B: Yes, (**they**) are.

【解説】

空所は Yes-No 疑問文に対する答え < Yes, 主語+動詞(助動詞) > の主語の部分である。疑問文の主語は **these books** なので、三人称複数の主語を受ける代名詞の **they** が答えとなる。

14-④ A: Is this Ken's sister's pen? B: No, it's not (**hers**). It's Ken's.

【解説】

質問は「健の妹のペンですか?」ということなので、答えの「いいえ、それは〇〇ではありません。」の〇〇は「健の妹のもの」ということになる。通常、答えの文ではその部分が代名詞とされるので、ここは「彼女のもの」と考えて **hers** を答えとする。

14-⑤ A: Peter, do you and your sister play cricket?

B: I do, but my sister (**doesn't**).

【解説】

「あなたとあなたの姉は～?」という質問に対して、答えは「私はします(クリケットをプレーする)。でも、私の姉は…」ということなので、空所は「～しない」という答えになることが予想される。一般動詞の疑問文に対する答えの文では **do** または **does** が使われるが、主語が三人称単数の **my sister** なので、答えは **doesn't** である。ちなみに、**doesn't** の表す内容は **doesn't play cricket** である。[おまけ] この問いは、問題文で **does** を見せずに答えに **does** を入れさせる対話文を考えるのにとっても苦労した。

<例> 15-① That is Mr. MacRae's umbrella (下線部がわからないときの疑問文に)
→ (**Whose**) (**umbrella**) is that?

【解説】

この問題は、元の文を指示どおりに書き換えるとうなるかを判断できるかどうかを問う問題である。元の文の下線部は「(人)の～」という意味の部分である。ここがわからないときの疑問文は「誰の～」という意味の文になるので、**Whose** ～を文頭に置けばよい。「～」は **umbrella** であるので、ここは **Whose umbrella** となる。また、疑問文であるので、**be** 動詞 (**is**) が主語 (**that**) の前に出てくる。

15-② My brother studies Japanese at school. (下線部を **English** にして否定文に)
→ My brother (**doesn't**) (**study**) **English** at school.

【解説】

一般動詞 **study** がある文を否定文にするので、**don't** または **doesn't** を使い、動詞は原形を用いる。主語が三人称単数の **my brother** であり、元の文は **studies** となっているので、**doesn't study** として否定文を完成させればよい。

15-③ Kumi is thirteen years old. (下線部がわからないときの疑問文に)
→ (**How**) (**old**) is Kumi?

【解説】

年齢を表す **thirteen years old** の部分が不明なときの疑問文であるので、「何歳～?」という疑問文を作ればよいと判断できる。年齢を尋ねるのは < **How old** + **be** 動詞 + 主語? > であるので、その冒頭の2語を入れれば疑問文が完成する。

15-④ I like social studies. (下線部がわからないときの疑問文に)
→(**What**)(**subject**) do you like?

【解説】

教科名に下線部が引かれており、それを尋ねる文であるから、「どんな教科が好きですか」という疑問文を作ればよいとわかる。「どんな～？」は **What** + 名詞～？であるので、空所には **What subject** を入れれば文が完成する。

15-⑤ Ken sometimes practices soccer. (下線部がわからないときの疑問文に)
→(**How**)(**often**)(**does**) Ken practice soccer?

【解説】

頻度を表す **sometimes** (ときどき) に下線が引かれており、それを尋ねる文であるから、「どのくらいの頻度で健はサッカーの練習をしますか」という疑問文を作ればよいとわかる。「どのくらいの頻度で～？」は **How often** ～？であるので、文頭の2語はそれを入れる。さらに、元々の文は三単現の一般動詞の文であるので、疑問文では **does** 用いればよいことがわかり、3番目の空所にそれを入れると疑問文が完成する。

16-① これは私にとって初めての京都(訪問)です。
This is (my first time in Kyoto) .

【解説】

文頭に「これは～です」があるので、残りの「私にとって初めての京都(訪問)」を作る。「私にとって初めて」は **my first time** で、その内容である「京都に」の **in Kyoto** が後ろに来るので、正解は **my first time in Kyoto** となる。

16-② 木の下にいる女の子を見てください。
Please look at (the girl under the tree) .

【解説】

前置詞句の後置修飾の理解度を診る問題である。日本語を見ながら()の中の語を見ると、**the tree, the girl, under** の3つのパーツにできる。次に「女の子を見て」だから、**look at the girl** とする。そして、「木の下にいる」は **under the tree** であり、それが「女の子」を後ろから修飾するようにすると、答えの文が完成する。

16-③ メアリーは毎朝犬を散歩させます。
(Mary walks her dog every morning) .

【解説】

「誰が」(主語) + 「～する」(動詞) + 「何を」(目的語) という典型的な文である。主語は **Mary**、動詞は **walks**、目的語は **her dog** である。これに「毎朝」を表す **every morning** を加えれば、答えの文が完成する。

16-④ あなたはどんな映画が好きですか。
(What kind of movies do you like) ?

【解説】

日本語の意味から、これは15④と同じ形の疑問文にすればよいと想像できる。ただし、**kind** があるので、「どんな種類の～」という表現を使う必要があると思われる。そこで、文頭を **What kind of movies** としてみる。残った3語は「あなたは～が好きですか」にあたるので、**do you like?** と並べてみると、答えの文が完成する。

16-⑤ 手にボールを持っている少年は私の弟です。
(The boy with a ball in his hand) is my brother.

【解説】

日本語の意味を参考に()の中の語をまとめてみると、**his hand, a ball, the boy** が作れる。「ボールを持っている」は **with a ball** であるので、これで **the boy** を後ろから修飾する。そのボールは「(彼の)手(の中)に」あるので、**in his hand** で **a ball** を後ろから修飾すると、答えの文となる。前置詞を2つ使った後置修飾の問題である。

<例> 18-① 教室が暑いので、先生に「窓 (windows) を開けてもよいか」とたずねるとき。

Can I open the windows, please?

【解説】

「～してもよいか」とたずねるのは、自分が主語で許可を求める can を使うと考えられるので、Can I ~? である。「～を開ける」は open という動詞を用い、「窓」はその教室の窓であるとわかるので the windows である。最後に丁寧に許可を求める please を付け加えるとなお良い。※ please は無くても正解。

18-② 相手から何の教科が好きかをたずねて、「自分は理科が好きだ」と答えた後に、「あなたはどうか。」とたずね返すとき。

I like science. How about you?

【解説】

「自分は理科が好きだ」は「私は、好きだ、理科を」の語順になるので、I like science. である。相手に同じ質問をする場合、その質問をそのまま使う他に、「あなたはどうか」と簡略化した質問をする方法があり、それは How about you? である。

18-③ 行事の準備のために、「学校に7時40分に来てくれないか。」と相手にたずねるとき。

Can you come to school at 7:40?

【解説】

「～してくれないか」と相手に依頼する表現は「～できるか」の Can you ~? である。その内容は「7時40分に」「学校に来る」であるので、それぞれ at 7:40, come to school とする。時刻や場所を表す表現はたいてい文の最後にくるので、順番に気をつけて並べる。また、時刻を表す at と到達点を表す to を適切に使えるようになりたいものである。

18-④ 相手に寿司 (sushi) と焼肉 (yakiniku) のどちらが好きかをたずねるとき。

Which do you like, sushi or yakiniku?

【解説】

「A と B ではどちらが～ですか」は Which ~, A or B? で表す。「～が好きか」は do you like なので、Which do you like, とし、「寿司か焼肉では」は sushi or yakiniku であるので、それらを当てはめると答えの文ができあがる。

18-⑤ 「ペンギン (penguins) は海を泳ぐことができるが、空を飛ぶことはできない。」と言うとき。

Penguins can swim in the sea, but they cannot fly in the sky.

【解説】

動物などの種類全般を指す場合は複数形にするので、主語は penguins である。「～することができる」は can、「海を泳ぐ」は swim in the sea であるので、前半は Penguins can swim in the sea. となる。後半は、「～できない」が can't (cannot)、「空を飛ぶ」が fly in the sky である。主語は具体的に書かれていないが、ペンギンであることは明白である。ただし、同じ主語を繰り返し使う場合は代名詞に代えるのが普通であるので、ここでは三人称複数の代名詞である they を使うと、後半の文ができあがる。後半の文は前半の文に対して反対の意味を持つものであることが日本語の「～が、」からわかる。そこで、後半を But ~ としたいところであるが、条件に「途中でピリオドを打たないで」とあるので、前半の文と後半の文を「, but」でつなぐようにすると答えの文ができあがる。

【おわりに】

どうでしたか？ 改めて各問いの正しい答えを導くまでの過程を理解してもらえたでしょうか（簡略版なので、みなさんの方が詳しい説明になっているものもあったと思います）。大切なのは、「正しい答えを他の人に説明できるくらい理解できていること」です。「文法問題があまり得意でない」、「英作文がどのようにしたらいいかわからない」という人は、以上の解説を参考にしてください。

なお、次回のテストノートにはこのような模範解答はないので、自力で頑張ってください。